

(独) 家畜改良センターの衛生情報  
「NLBC 家畜衛生通信 第 48 号」 令和 7 年 8 月

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
熊本牧場 業務課	熊本県 玉名市	肉用牛	牛舎消毒、ハエ類対策、 ランピースキン病

## 熊本牧場におけるハエ類を中心とした吸血昆虫対策について ～福岡県、熊本県でのランピースキン病の発生を受けて～

### 1. 初めに

家畜改良センター熊本牧場では、令和 6 年 11～12 月に福岡県と熊本県でランピースキン病の発生が確認されたことを受け、ベクターとなるサシバエ等の吸血昆虫対策の強化を行っております。普段から行っていた対策に加え、令和 7 年 2 月 7 日に農林水産省から通知された「春先に向けた吸血昆虫対策の強化について」(6 消安第 6558 号) や、令和 7 年 7 月 15 日に通知された「吸血昆虫対策の徹底について」(7 消安第 2454 号)、また県からのリーフレット等を参考に駆虫剤散布等を行っております。

今号では現在熊本牧場で行っているハエ類を中心とした吸血昆虫対策についてご紹介いたしますので、皆様のご参考になれば幸いです。

### 2. 牧場のハエ類対策について

週に 2,3 回の牛舎のボロ出しを実施することによって牛の糞や湿った敷料等を除去し、ハエ類が発生しにくい環境を作っています。また、月に 1 回程度ボロ出しに併せてハエ幼虫駆除の効果もあるオルソ剤を用い、駆虫及び牛舎の消毒を行っています。

畜舎消毒の様子



### 3. 今年より強化したハエ類対策について

#### 【使用駆虫剤】

##### ①シロマジン製剤 (ハエ類幼虫対策)

ハエ類幼虫の脱皮を阻害するシロマジンを主成分とした IGR 剤 (昆虫成長制御剤) を使用しています。

・商品例：ネポレックス (エランコジャパン株式会社)

シロマジン 10% 液「KS」(共立製薬株式会社) など

## ②ピリプロキシフェン製剤（ハエ類幼虫対策）

ピリプロキシフェンは幼若ホルモン様物質によって蛹の羽化を阻害するIGR剤です。

シロマジン製剤とは作用機序が異なるので、可能な限り交互に使用することで駆虫効果の増強を図っています。

・商品例：サイクラーテ SG（住化エンバイオメンタルサイエンス株式会社）

動物用金鳥水溶性PPK粒剤（大日本除蟲菊株式会社）など

## ③ピレスロイド系殺虫剤（ハエ類成虫対策）

ピレスロイド系の殺虫剤で主にハエ類等の成虫の対策に使用しています。

・商品例：金鳥 ETB 乳剤（大日本除蟲菊株式会社）

ペルメトリン乳剤（フジタ製薬株式会社）など

※金鳥 ETB 乳剤（大日本除蟲菊株式会社）は牛では休薬期間がないという特徴があるため、牛舎内や牛体に適宜散布しています。

### 【散布方法】

#### (1)ジョウロでの散布

ホームセンターで売っている 10ℓ のジョウロで牛舎回りや牛舎内の除糞残し等にかけています。準備が簡単で、手軽に薬液を浸透させることができます。



## (2) 背負い式動力噴霧器での散布

牛房回りのハエの発生源となるところや壁等に散布しています。

10ℓほど入る規格のものを使用しています。ジョウロに比べまんべんなく広い範囲に撒ける反面、一度に出る薬液量が少ないため、散布場所や作業人数に応じてジョウロと使い分けています。



## (3) 霧吹きでの散布

駆虫剤を牛体に直接散布する際に霧吹きを使用しています。

準備が簡単で、気づいたときに手軽に散布できる利点があります。



### 【散布場所】

牛舎内では、飼槽の下や掃除が行き届かない牛房の隅、牛糞が付着した牛房の縁等にハエ類が潜んでいます。牛舎周囲では、敷料や牛糞が落ちている場所、エサのこぼれ等にハエ類がよく発生しており、またウォーターカップの下や側溝等、日陰があるところでハエ類は休憩をしています。

そのような場所へ薬剤を重点的に散布することで、駆虫作業の効率性を高めています。

#### <牛舎内の散布場所>

- ①飼槽の下
- ②牛房の隅（糞が残っている）
- ③牛糞が付着した牛房の縁



<牛舎周囲の散布場所>

- ①牛舎外側の牛糞こぼれ
- ②牛舎外側の飼槽近くのエサのこぼれ
- ③ウォーターカップ下で休憩中のハエ類
- ④側溝の日陰で休憩中のハエ類



4.最後に

熊本牧場では以上のようなハエ類を中心とした吸血昆虫対策を行っております。

ハエ類の発生を完全に防ぐことは難しいですが、持続的にハエ類対策を行うことで数は減らせると考えています。

また、ハエ類は気温の高い夏季は1,2週間程度で卵から成虫へと発育するので、夏季は頻度を多くして駆虫に取り組んでいます。

ランピースキン病対策としては、牧場の外からハエ類を持ち込まない対策も重要です。令和6年の福岡県と熊本県における発生では、他の畜産施設から車に乗ってサシバエが長距離移動した例もあったとのことなので、公用車には殺虫スプレーを常備しています。また、他の畜産施設等に行った際は、ハエ類を持ち帰ってしまわないように牧場職員に周知徹底もしているところです。

令和7年1月以降、ランピースキン病の発生は確認されておりませんが、引き続き警戒を強めて、衛生業務に取り組んでいきたいと思います。

以上